

「は、何となく正月はくるな
へ、さういふ」
若い娘の年がゆく——と、
誰かが歌っているが、お盆ほど
私共は何となく親近感をいだか
せる行事は少ないようだ。
ヤブ入りをかねた帰郷者の教
も、金園では何百万人にのぼる
であろう。いづこの旅の空に釋
しても、生まれ故郷のこと
を患ひ浮かべて懐かしむのは、
人間本具の気持である。
遠くへ出かけたという疚心
と、故郷へ帰りたいとの矛盾し
た本能が働いているようだ。こ
れを生物一般に押しなべていえ
ば、彷徨本能と帰巢本能との反
対的にいえることは、私ども

は幾世代の祖先の業縁を偲ぶ感
念であり、さすがでもある。祖
先に対しては、その労苦をつわ
に感謝すべきである。いま私に
ささやかな家と土地と、若中
所有物のあるのは、多くは幾世
代の祖先の賜であることに間違
いはない。私のからだも心も、
みんな祖先からゆすり受けた
のである。それはまた「永遠
いのち」にもつながっている。
祖先のなかに、善いものもあ
ったが、品劣れるものもある
だろう。一様に崇拜せよとい
うのは、多少無明がある。ただ
一般的にいえることは、私ども

未開時代から、近代にかけて生きてきた人間は、現代人よりどれだけの悩みが多かったかも知れない。こんどの戦争の犠牲になつて、散華した先人と思つても、そのご苦労に対しては、感謝しきれないものがある。昨年より政府の手によつて、全国一斉に戦歿将士の、慰霊追悼の行事が行なわれるのも、さこそとどうなづける。追悼式を軍國主義に導る第一歩と考えるのは、少々思い過こしである。もう軍國主義では、事頭の解決ができない世界情勢が来ている。世界追悼の建設運動が、大きく登壇して、平和への貴い人柱になつた肉親への追悼式は、まことに感嘆深いものがある。そこに人情の至美が現われている。それでこそ、その世も人間性を失ふなないで、人間らしく生きてゆける。世の中に感情の論理があるとすれば、先祖のご恩に心から感謝する。そして地縁社会の人々々が集まつて、半湯を踊つて過す夏之夜のひとときに、世の平和と浄化をつくり出す、感情の輪理がつよく働く。

ことしもまた平和の願いをこめて、みんな桑し苺踊りをまわし、小輪にくりひろげよう。

——稿 寄——

村を振り返る

武 山 村

木の広報
に執筆しな
くなってか
らまる三年
が夢のよう
に過ぎ去つ
た。この間
池田内閣の
所得増徴政
策で日本経
済は急激に高度成長の姿をあげ
た。こうした華々しい景気の中
で農村の、それも青年団の人口
が急激に都会へ流出して行っ
た。誠に驚くべきものであった。
人のいない村で青年運動が可
能であるといふのは無期な話
今日首年會が何もしなかった
としても應る必要もなければ
くにもあたらな。筆者は
年前に青年會長の席をけがし
今は役場の中略となっている
川福一君、鈴木善雄君、鈴
野三君、井ノ川稔君などの援
を得たし、その他諸先輩や同
の協力を受けるがらもどうに
考へたことの一部をやりおお
した。しかし着気の至りでであ
る多くの人に迷惑をかけたこと
多々いてゐる。在任中、何と
生計忘れ得ぬことは村会議員
選挙中、青年會が主催する立

演説会の準備中、交通事故をおこして大怪我をしたことであつた。その怪我也さることながらその後始末に際して人の世の非情さを痛感しある悟りを開いたことであつた。(ここで私の無鉄砲な青年時代は事実上終りをつけることになったのだが;)

大学病院での二ヵ月間は平者の人生の旅程で貴重なものとなるであろう。自分でさえもあきれけるほどのフツテしい心算でどうにか我が人生の危機は通りぬけ得たものの、まだその傷はなおってはいない。

五年前に既に顕著になつていた青年の離村傾向に対処して私は青年運動を婦人にも参加できる「生活記録運動」と「住みよい郷土建設運動」の二つの柱をもつて大衆組織化の布石としたこの構想を完全に軌道に乗せることなくして私は退いたが、それでも衛生係として故井川友一氏、中島通治氏の理解と協力により、「住みよい郷土建設運動」は多少なりとも成果をおさめ得た。衛生組合(後に衛生自治会となつた)組織の結成、モデル地区組織活動の展開、水道施設の実現(これは衛生組合組織の世論に訴へ、婦人団の熱意をもを開いたこと。おごがましくものを中里村のために誇り得るものと言ふはこれだけだ)。青年

中里村は貧乏な村には違いない。財力も乏しい。これは必ずしも為政者のせいばかりではなく、善からの宿命である。しかし宿命論者になりさがつてはもはやおしまいである。農業の近代化とか所得の格差是正とかいまのはやりの熟語をならべたてても所詮空座なわけごとである。高橋村長が言われるようにそんな言葉の遊戯より「どうしたらいま困っている百姓が安心して食べてゆけるようにするか」が何よりも本問題であろう。十二峠に道路ができ、小松原へ林道がきき、清津川右岸段丘地の開発が成り、土地改良、区画整理が進み平均耕作面積一町歩以上の農家に育てられ得るとすれば、ひとまず大成功というべきだ。

かつては性急な改革を強調した下者ではあるが、昨今では性急な理論に大きな無理と矛盾があることを認めている。人生は長い。歴史も長い。あたふたと宵の山道を下る農夫のように急がないがよい。よしんば腰の板の真中で腰が落ち、腰がおとされたとしてもいすれば朝がきてモヤがあがり、まぶしい陽の光りがあたらう。その時のために

一日日、一刹那をニツツとためます建設にいそしむべきだ。一人が誇り得るなにかを一つずつ成し得たなら、中里村八千人の人が八千誇り得る足あとを村にのこすことになる。中衛や剋敵や圧力をおそれ何もしないよりは、何事をもつて自からなそうと思つたことをやれ。やがては将来そのことが村のためになったといふことを住民が認めてくれるであらう。

(筆者は十日町市在住)

八月十五日及び八月十七日に国旗を掲げましょう

昨年行なわれた全国戦没者追悼式を今年も八月十五日國の主催のもとに靖國神社境内で行なわれることになっています。

また八月十七日には中里村及び中里村連合遺族会主催のもとに、今次大戦の戦没者及び満州開拓團係犠牲者四四六人の慰霊法要を行ないます。この岡日は戦没者に追悼の誠を捧げるため全戸こそつて国旗を掲揚されるようお願い申し上げます。

なかさと文芸

大泉

此うれし生涯、教師も炎天下

桂 仙

頭昇の陣大雷鳴に耳かす

冷酒酌む暫く孤独よりのがる

土 牛

日輪にしおきもとげ尻筆泳ぐ

大身

挂
他

5117a

りのがる

中里村教育長 村山軍英


 4
 5
 6
 7
 8
 9


毎月一回 15日
定価 1部 5円
発行所
中里村公民館
男 4,499
女 4,481
計 8,980
世帯数 1,716

ていきたいと考えています。

中学校の現状と統合問題

中学校は現在本校三カ校（田沢、倉俣、員野）であります。田沢中学校はこれまで三つの分校を昭和三十五年度的において高道山、小出の両分校を統

得ない状況であります。

以上のような現状の分析の上に立つて村教育委員会としては、昭和四十年度的において田沢中学校と員野中学校を統合し昭和四十四年度までに倉俣中学校の統合を完了し、ここに中学校については一村一校の規模を強く期待しているわけであります。

少なくとも三ヶ年は必要とされるかも知れるので、受入れ態勢の關係上、昭和四十三年度に實現すべく見込んでゐる次第であります。

以上かいつまんで当面の學務問題についてのべましたが、村教育委員會は以上の計画にもとづいて去る七月二十八日、新屋敷、本屋敷、小沢、二十九日四箇

田沢小PTAでは公民館と共に、一年生から三年生までの低学年学級PTA会員を対象に、五間×九間。内部は理科室、音楽室のほか準備室が二教室、階段、廊下などを含め延九十坪となっている。

田沢小PTAで
家庭教育学級

田沢小PTAでは公民館と共
同で、一年生から三年生までの
低学年学級PTA会員を対象

特別教室増築

舎がせまくて困まっていた。小畠小に、理科室、音楽室など別教室が増築されることにした。工事は五百万円で三島株式会社との請負に付され、二月二十日の竣工期でいよいよ作業がすめられてい	さん方が熱心に勉強しました。なお、村教育委員会では国定小家庭教育学級のほかにも、保所母の会で幼児の問題を中心とした中PTAと共催で一般的な家庭教育学級を開設することになっています。
---	---

小学校の現状

現在小学校は本校五（田沢
道山、倉俣、貝野、清津峯

